

インターバンクの声（2016 年 9 月 16 日）

8 月の米小売売上高が前月比で 0.3%減と予想以上の落ち込みとなり、米景気を下支えしてきた個人消費に陰りが出始めている可能性を示した。小売売上の発表後、円相場は 20～25 銭程ドル売りに反応したが、同時刻に発表されたフィラデルフィア連銀景況指数がやけに強い数字だったことや、米長期金利が上昇気味だったこともあって、その後は指標前の水準を越えて 102 円 70 銭台まで戻した。米連邦準備制度理事会 (FRB) の 9 月の追加利上げは見送りになる可能性が高まったが、利上げをしないリスクや年内の利上げについての連邦公開市場委員会 (FOMC) での議論は依然として注目されており、ニューヨーク市場後半のドル売りの流れがこのまま続くかどうかは微妙だ。日銀の追加緩和については、マイナス金利の深堀やその他の噂される施策にしても、円安を促す効果があるとは思えないとの声も多いが、警戒感だけは残っている。ニューヨーク市場の早朝に発表される 8 月の米消費者物価指数が小売に続いて弱い内容となれば、ここ最近のドル安値を割り込む可能性もある。ただ市場にはクリントン氏、トランプ氏のいずれが大統領になっても円安方向に動くとの噂もあり、数ヶ月前のように単純に円高バイアスが強い時期と同じと判断するのは少し危険だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。